

島根県神社庁報

第 365号

島根県神社庁

〒699-0701

出雲市大社町杵築東 286

TEL 0853-53-2149

FAX 0853-53-2582

臨時協議員会

去る三月二十六日(水)島根県神社庁臨時協議員会が
大会議室において開催された。

本協議員会では神社庁役員任期(令和四年四月一日)
令和七年三月三十一日)満了による役員改選が行われた。

角河庁長が挨拶を述べられた後に開会となった。

議長には小澤直志協議員、副議長には山根茂樹協
議員が選出された。

役員選出には出雲、石見、隠岐の各地区から二名ずつ
選ばれた選考委員が協議を行い、その後、宇藤選考委
員長から役員の発表が行われた。庁長は忌部正孝氏(水
若酢神社宮司)、副庁長は牛尾充氏(濱田護國神社宮司)、
同じく小野高慶氏(日御碕神社宮司)が選任された。
尚、新役員並びに各委員会の構成は五頁に掲載する。



庁長退任の挨拶

前庁長 角河 和幸

本年は神社庁役員改選の年にあたり、去る三月二十六日開催の島根県神社庁臨時協議員会において私、庁長の職を退任いたしました。後任として忌部正孝様が新庁長に就任いたしました。忌部様を始め私の庁長在任中に副庁長を務められた勝部和承様や篠田範雅様にはひとかたならぬお世話になりました。この間、理事・支部長・職員の皆様にも非力な私をお支えくださいました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。顧みますと平成十六年四月、千家尊祐様が庁長に就任されると、青木義興様と私が副庁長を拝命し四期十二年、神道政治連盟県本部長を二期六年、平成二十八年四月に庁長に就任してから三期九年、合わせて七期二十一年この間千家尊祐様、青木義興様を始め多くの皆様方のお陰で何とか職務を全うする事が出来ました。

在任中、畏くも今上陛下の御即位や奉祝

行事、大嘗祭に巡り会う事が出来ました。これは何よりの慶びであります。又、平成

二十九年十一月には庁舎建設十周年記念行事を執り行う事が出来ました。一方県内では、大田市を中心とした震度五強の島根県

西部地震、江津市の豪雨災害や東部地区における豪雪災害に見舞われ、世界的にはコロナ感染症の流行により、社会生活が脅か

されました。これ乗り越えて祭や神事の諸行事が執り行われ、地域の信仰の光を灯

し続けて下さいました氏子崇敬者の皆様方、神職の皆様方に深く感謝申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては令和十五年秋の完遂に向けて第六三回神宮式年遷宮に関わる諸祭儀が執り行われます。こ

の大事業に忌部新庁長を始めとして島根県の神社関係者一丸となって取り組まれますようお祈り申し上げます。

末筆ながら、県内一、一六四社のご隆昌と神職・氏子崇敬者の皆様方のご多幸をお祈り申し上げ退任のご挨拶と致します。

祈り申し上げ退任のご挨拶と致します。

祈り申し上げ退任のご挨拶と致します。

祈り申し上げ退任のご挨拶と致します。

庁長就任の挨拶

庁長 忌部 正孝



本年は島根県神社庁役員改選の年にあたり、去る三月二十六日開催され

ました臨時協議員会におきまして図らずも庁長に選任され、重責を担うこととなりました。顧みますと平成二十二年副庁長として就任以来五期十五年、青木庁長、角河

庁長のもと、非才ながらもご指導を頂き職責を務めてまいりました。しかしこれからの一期三年間は、庁長として県内一、

一六四社のお社と神明奉仕をしておられる約六五〇人の神職、また多くの神社役員・

総代様の力となり、次の時代に繋いでいく責務を果たさなければなりません。勿論小

生がその任に足りないことは自覚しておりますが、これも神様からの試練と受け止

め、誠心誠意努めさせていただき所存です。関係各位のご協力の程宜しくお願い申し上げます。

関係各位のご協力の程宜しくお願い申し上げます。

関係各位のご協力の程宜しくお願い申し上げます。

御皇室におかれましては、皇位継承順位第二位の悠仁親王殿下が、今年九月六日、十九歳の御誕生日に成年式を迎えられ、皇位継承権を持たれる男性皇族としては秋篠宮さま以来三十九年ぶりの成年皇族のご誕生とされます。今後は大学生として勉学に励まれると共に、ご公務に就かれますことは大変心強く存じ上げます。御皇室の益々の弥栄を祈念致すと共に、より一層尊厳護持に努めてまいります。

さて、伊勢の神宮におかれては、昨年四月七日に天皇陛下下のご聴許を拝し、第六十三回神宮式年遷宮の準備が始まり、今年は五月二日に山口祭、六月三日には御杣始祭(みそまはじめさい)が行われ、令和十五年の遷御の儀に向けて多くの神事や行事が始まります。当庁と致しましても神宮大麻の頒布と式年遷宮推進に奉賛のまことを尽し、完遂に邁進致したいと存じます。

また、今年は昭和百年、大東亜戦争終戦八十年という記念の年を迎えます。次代の人々が平和に暮らせるようにと願い、祖国の為に、国民の為に、尊い命を捧げられた

英霊に対し、感謝と尊崇の真心を持って応えるべく、靖國神社、護國神社への参拝推進に努めてまいります。

一方、まだまだ多くの問題を抱えているのが島根県の神社界の実態です。取り組まなければならない課題は山積しておりますが、新たに就任された、牛尾充副庁長、小野高慶副庁長、新役員の皆様と力を合わせ、喫緊の最重要課題であります過疎地における氏神神社の維持と祭祀の厳修、後継神職の育成、そして神社庁運営の健全化と次代を担う若手役員の育成に尽力してまいります。神職各位を始め、神社関係者の皆様にはより一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、就任の挨拶といたします。

副庁長就任の挨拶

副庁長 牛尾 充



去る三月二十六日に開催されました神社庁臨時協議員会において、副庁長に選任されました。もとより浅学非才の

私であり、まだまだこれから学んでいくべきことが多々ありますが、誠心誠意努めていく所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず今年は、昭和という激動の時代が始まり百年。そして、先の大戦終結より八十年という節目の年を迎えました。四月七日には、天皇陛下、皇后陛下におかせられましては、先の大戦で激戦地となった小笠原諸島の硫黄島に慰霊のためご訪問なさいました。両陛下は、雨の中「硫黄島戦没者の碑」「硫黄島島民平和記念墓地公園」「鎮魂の丘」を巡られ献花をされ、また、厳しい水不足の中で渴きに苦しんだ兵士らを偲び、献水をされたと報道がありました。そして、戦争の記憶を継承し平和を次代に繋ぐ活動に対して、陛下は「大切なことです」と話しておられます。忠魂碑、慰霊塔がある神社もあると思います。私たち神職も折にふれ、故郷と愛する家族を護るため戦禍に散った英霊に感謝すると共に、平和な世の中であることを祈らなければならないと思っております。

さて、島根県神社庁教化委員会においては、新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、令和三年「県内神社における新型コロナウイルス感染症の影響及び対策に関する現況調査」を行いました。その回答の中には祭、神賑行事斎行が困難である、氏子と神社の繋がりが希薄化する恐れがある、といった懸念の声がありました。現在はコロナ禍以前の祭の状況に戻りつつあると感じられますが、一度無くなったものは中々元に戻るのには難しいと感じています。

また、島根県における少子高齢化、過疎化、氏子離れ、神職の後継者問題等は、氏神社の維持、祭祀の継承にも繋がる深刻な事柄です。昨年「過疎化、少子・高齢化に関わる神社運営状況アンケート調査」を行いました。平成二十四年にも同様のアンケート調査を行いました。今後は十年前との比較、分析を行い、そしてコロナ禍以降の諸問題も含め、活動を具体的に計画していかなければならないと思っております。その為にも、神職各位、神社総代の皆様、関係団体の皆様方のご協力が是非と

も必要であります。

改めて山積する課題の重要性、職責の大きさを痛感していますが、小野高慶新副庁長、理事と共に、支部長始め皆様方のご協力を得ながら忌部正孝新庁長をお支えし、斯界のため微力ではございますが努めてまいりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

.....

副庁長 小野 高 慶



本年は島根県神社庁役員の改選の年にあたり、私、総務委員長として二

期六年間ご指導を賜りました角河庁長、篠田副庁長が退任されました。お二人の長年のご功績に対し深く敬意を表すると共に、温かくお導きいただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。

そして去る三月二十六日に開催されました臨時協議委員会において副庁長に指名され、その重責を担うこととなりました。もとより浅学非才の私ではございますが、新たに

就任されました忌部庁長様、牛尾副庁長様をはじめ役員の皆様方のご指導を仰ぎつつ、前職の総務委員長時の経験を糧に、甚だ微力ではありますが、誠心誠意努めてまいり所存でございます。皆様には格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

島根県下の神社界を取り巻く状況は、急激な少子高齢化と過疎化等に伴う問題、都市部での氏子離れの問題、長引いたコロナ禍からの復旧の問題等々、取り組まなければならない問題は山積しております。これらのことを役員、支部長、関係者の皆様のご協力を仰ぎながら一步一步取り組んでまいりたいと存じます。

結びに、県内神社の益々のご発展と御社頭の弥栄をご祈念申し上げ、就任の挨拶と致します。

島根県神社庁協議員会役員及び職務分担

令和7年3月26日の臨時協議員会において決定

役員										監事									
島根	島根	鹿前	益田	浜田	江津	那賀	邑智	大田	出雲	簸川	飯石	大原	仁多	安来	能義	八束	松江	支部長	副議長
億岐	松浦	宅野	篠田	牛尾	河野	寺本	湯浅	中田	塩野	吉岡	喜和田	池田	内田	陶小	齋木	秦佐	佐草	小澤	山根
史人	道仁	裕司	範雅	充	正行	典則	晃誠	宏記	清明	久	匡史	貞文	浩正	直志	正保	崇弘	敏邦	直志	茂樹
(玉若酢命神社宮司)	(焼火神社宮司)	(八幡宮宮司)	(八幡宮宮司)	(濱田護國神社宮司)	(八幡宮宮司)	(三原八幡宮宮司)	(物部神社宮司)	(火守神社宮司)	(御碕神社宮司)	(出雲大社祢宜)	(天満宮宮司)	(加茂神社宮司)	(澤神社宮司)	(八幡宮宮司)	(国主神社宮司)	(永川神社宮司)	(八重垣神社宮司)	(八幡宮宮司)	(物部神社責任役員)
澤田	道仁	直明	松浦	横山	佐草	中田	内田	宮能	齋木	小野	高慶	正保	高慶	正保	高慶	正保	高慶	正保	高慶
(比太神社責任役員)	(焼火神社宮司)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)	(比太神社責任役員)

役員等の職務分担

特別委員会										
神職身分選考委員会					(定員四名)					
委員長(庁長)		忌部 正孝		委員(副庁長)			牛尾 充・小野 高慶		委員	
		齋木 正保								
階位検定委員会					(定員三名)					
委員長(庁長)		忌部 正孝		委員(副庁長)			牛尾 充・小野 高慶			
奨学金委員会					(定員三名)					
委員長(庁長)		忌部 正孝		委員(副庁長)			牛尾 充・小野 高慶			
小規模神社審査委員会					(定員五名)					
委員長(庁長)		忌部 正孝		委員(副庁長)			牛尾 充・小野 高慶		委員(総務委員長・教化委員長)	
		齋木 正保・宮能 壮充								
広報委員会					(定員若干名)					
委員長		陶山 浩正		副委員長			鳥屋尾 浩		委員	
		鳥居 正嗣							委員	
		江角 恵							委員	
		石崎 彰矩							委員	
祭祀委員会										
委員長(祭式講師)					牛尾 充					
委員(祭式助教)					金築 知宏					
委員(祭式助教)					森 眞史					
委員(祭式助教)					野上 郁子					
各種委員会										
総務委員会					(定員三名)					
委員長		齋木 正保		委員			内田 貞文		委員	
				横山 陽之						
教化委員会					(定員三名)					
委員長		宮能 壮充		委員			中田 宏記		委員	
				佐草 敏邦						
階位検定講習会運営企画委員会										
委員長(庁長)		忌部 正孝		委員(副庁長・祭祀委員長)			牛尾 充		委員	
				小野 高慶						
		齋木 正保								
		宮能 壮充								
		石原 道夫								
		金築 知宏								
		錦田 剛志								
		和田 晋爾								

特別寄稿

「国家」を丁寧に語り、行動したい

参議院議員 比例代表(全国区)選出

神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長 有村 治子

来たる参議院選挙に向けて、全国統一候補としての推薦を機関決定頂きました。神道政治連盟はじめ神社界の同志の皆様には、いつも温かいご指導とご支援を賜っておりますことに、衷心より御礼を申し上げます。

お育て頂いて参議院の議席を四期お預かりする中、私が自由民主党を代表して臨んだ本会議場での国会質問や、NHK全国中継のある総理・閣僚への論戦では、例えば次のようなテーマを論じて参りました。

- 万世一系の皇統を守ることの価値と、皇位継承の伝統を堅持すること
- 占領下に制定された憲法の問題点と具體的改正案
- 歴代総理の歴史認識と戦没者追悼のあらべき姿

- 教科書における領土教育の拡充
- 政教分離の原則と、被災地での「心の復興」の具現化

- 敬意をはらうべき自国と他国の国旗掲揚の国際マナー

- 日本の主権や領土を保全するための海洋安全保障

- 覇権を狙い横暴を繰り返す中国に対する、我が国の毅然とした主張・反論

- 史実や歴史的根拠を踏まえない慰安婦問題の是正、教科書記述への牽制

- 国力の基盤をなす科学技術の振興と、技術流出への対応

- 分断に晒される沖縄に留意し、日本と沖縄双方を慈しむ国民層を増やすこと等です。

国民生活の安全、国旗や国歌、国土や領海の保全、日本の国柄など、様々な分野の政治課題を取り上げていますが、常

に共通しているのは、「国家」「国民」という日本全体にとつての安全性や公益・尊厳をどう確保し、具現化するか、という視点です。「国会議員が国家観を持つのは当然だ」と思われるかもしれませんが、残念ながら国会において、激動の世界で日本が生き抜く国家戦略が、論戦の中心になっている訳では必ずしもありません。

事実、戦後の日本では、自らの生存と暮らしの土台となる国の安全や国土の保全について、強い思いを致さずとも、平和と経済的繁栄・国際的地位を手にすることができました。とても幸運なことでした。しかし、日本をとりまく内外の現実を直視し、日本の安全をどう創り固めなすかを「国家」という視点で真面目に論じようとしただけで、右翼やタカ派とレッテルを貼られる時代が長く続いた弊害も出ています。自分達の安全確保の方策をまともに議論すらできないとしたら、これは不幸なことであり、随分危険なことでもあります。

戦争の反動で大きく揺れた戦後教育、とりわけ近現代史、アジアの歴史等をい

かに教えるかという問題は、イデオロギー対立における右・左双方にとつての核心的論点であり、教育現場においては、先生方がこの単元を教えないことによつて、思想的対立のリスクを回避する風潮も続いてきました。ゆえ、自戒の念を含めますが、国民の八十七％が戦後派世代となった今、少なからずの国民が、必ずしも近現代史への包括的な理解・認識を得ないまま、国際社会における日本の世論を形成しています。かつて日本と米國が戦火を交えた事実すら、知らない小学生も少なくありません。

國の根本法規である憲法についても、「改正」か「護憲」かの固定的な攻防にエネルギーが割かれてきた一方、日本を取り巻く脅威について具体的に論じる風土が醸成されてきたのはつい最近のことです。来年は戦後八十年の節目を迎え、「自主憲法の制定」を旗印に自由民主党が結党して七十年となります。

私に課せられた使命は、先人が織りなしてきた時間軸に敬意を払い、イデオロギー対立やレッテル貼りに巻き込まれることなく国家や国民性を自らの言葉で真

摯に語り続け、「日本応援団」の共感や世論を、丁寧に紡いでいくことだと考えます。

国家を丁寧に語るためには、自らの政治信条や思想的立場を主張するだけではなく、学術的にも、歴史の評価にも耐える論拠を生み出す探究が求められます。地に足をつけた研究を続け、保守政治家として国家を丁寧に語り、国民的共感を頂ける言動を重ねていきたいです。

今年七月に行われる参議院 比例代表(全国区)選挙に向けて、神道政治連盟は有村治子さんを全国統一候補として推薦することを機関決定しています。

参議院 比例代表(全国区)選挙は、北海道から沖縄まで全国四十七都道府県にお住まいの有権者の皆様に、候補者個人名で投票頂ける選挙制度です。

神政連臨時代議員会

四月九日(水)神道政治連盟島根県本部臨時代議員会が開催された。本年三月三十一日をもって、三年の役員任期が満了となるため、役員の改選が行われた。

本部長	諏訪邊泰敬(出雲)
副本部長	牛尾 茂典(浜田)
幹事長	門 屋臣(江津)
幹事	宮川 眞臣(大原)
	中田 宏記(大田)
	青木 義親(松江)
幹事・青年隊長	巨勢 佳史(飯石)
監査委員	松浦 道仁(島前)
	陶山 浩正(仁多)
議長	齋木 正保(能義)
副議長	塩野 清明(出雲)
事務局長	村尾 茂樹(主事)
事務局員	平林 卓也(録事)



神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。



児守稲荷神社の桜、
朝の風景



住宅地の中の
児守稲荷神社の桜



松江支部 稲荷神社宮司 鳥屋尾浩様からの提供

写真
送り先

〒699-0701 出雲市大社町杵築東286 島根県神社庁 録事 高見幸子 へ
Eメール takami@shimane-jinjacho.or.jp
※ 神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

随時募集中

新年祭

島根県神社庁新年祭が一月二十四日に
行された。
祭典には角河庁長外約五十名の参列が
あった。

齋主 中田 宏記(大田)
祭員 尾崎 靖記(浜田)
奏楽 篠田 雅子(益田)
奏楽 牛尾 麻衣(浜田)
典儀 牛尾 充(祭祀委員長)



支部祭式助教研修会

一月二十五日(土)、島根県神社庁支部
祭式助教研修会が開催され、県内各支部の
祭式助教十一名が参加した。

牛尾祭式講師、森祭式助教、野上祭式助
教による大祭式作法の指導を一日間受講し
た。受講者は、祭式講師らの丁寧な指導に
メモを取ったり作法を行ったりして一つ
一つ確認しながら真剣に研修に
取り組んだ。
研修の最後には祭式講師からは
一日研修の修了証が授与された。





奉仕員
齋主 松浦 道仁(島前)
祭員 村尾由美子(島前)
祭員 忌部 正哉(島後)
奏楽 福島 靖史(安来)
奏楽 長妻 久和(安来)
典儀 牛尾 充(祭祀委員長)

去る二月二十七日、
神社庁神殿において、
庁長を始め、役員支
部長参列のもと祈年
祭併神宮大麻暦頒布
終了奉告祭が斎行さ
れた。



祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭

令和6年度 神宮大麻及暦頒布実績表

項目 支部	大 麻				大麻 頒布率	過去3年の推移			前年比	暦	
	大 麻 (ふるさと便)	中大麻	大大麻	合計		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度		暦	大暦
松 江	8,698 (36)	98	63	8,859	13.5%	8,897	8,825	8,849	10	2	1
八 東	8,812 (31)	560	347	9,719	49.7%	10,100	9,846	9,886	△ 167	5	4
能 義	2,065 (66)	259	38	2,362	66.0%	2,481	2,433	2,389	△ 27	25	2
安 来	3,782 (94)	76	11	3,869	42.1%	4,067	4,041	3,995	△ 126	11	1
仁 多	3,035 (209)	35	23	3,093	71.5%	3,551	3,347	3,212	△ 119	0	0
大 原	7,873 (181)	71	29	7,973	99.2%	8,157	7,848	7,998	△ 25	303	1
飯 石	5,093 (509)	6	5	5,104	76.3%	5,170	5,130	5,089	15	86	1
出雲大社	790 (4)	0	27	817	120.3%	779	813	875	△ 58	0	0
簸 川	8,153 (45)	13	94	8,260	47.4%	8,364	8,458	8,323	△ 63	41	1
出 雲	14,392 (586)	171	55	14,618	32.3%	14,906	14,853	14,328	290	86	0
大 田	5,661 (35)	32	8	5,701	43.0%	5,972	5,819	5,699	2	0	0
邑 智	5,045 (0)	30	6	5,081	63.8%	5,630	5,425	5,287	△ 206	17	0
那 賀	3,067 (0)	346	16	3,429	63.6%	3,587	3,580	3,434	△ 5	18	3
江 津	3,199 (0)	29	0	3,228	39.7%	3,488	3,339	3,500	△ 272	0	0
浜 田	5,319 (30)	139	6	5,464	30.6%	5,763	5,517	5,504	△ 40	52	0
益 田	7,584 (27)	735	165	8,484	45.3%	9,128	8,953	8,720	△ 236	5	1
鹿 足	2,859 (31)	394	84	3,337	56.7%	3,322	3,344	3,368	△ 31	4	4
島 前	1,210 (0)	3	1	1,214	43.6%	1,375	1,335	1,234	△ 20	0	2
島 後	3,363 (62)	9	3	3,375	57.5%	3,455	3,433	3,423	△ 48	4	1
その他	0 (0)	0	0	0		1	1	1	△ 1	0	0
計	100,000 (1946)	3,006	981	103,987	39.1%	108,193	106,340	105,114	△ 1,127	659	22

参宮旅行記

簸川支部

上直江八幡宮 宮司 稲田昌史



伊勢神宮参拝

昭和四十一年から始まった参宮旅行も半世紀を超え、今回は五十二回目。長い歴史がある中で私が初めて参宮旅行に参加したのは昭和六十一年。平成七年から引率責任者を任せられるようになりましたが、平成七年が今回と同じような紀伊半島一周の旅でした。あの時は、私達簸川支部の亡き吉岡先代宮司様が団長だったことで、内宮から後の行程で我々のバスに「よいドン」のかけ声でおなじみになった写真屋さん石



二見ヶ浦の夫婦岩

倉のおじいさんが同乗され、バスの中では楽しい話で皆が腹を抱えて笑ったのを今もよく覚えています。

さて、今回簸川支部は第一班で三月二日～四日の三日間、四十一名での旅となりました。初日雨の中を出発しましたが、伊勢方面は幸いにも曇り空で午後三時半頃二見ヶ浦に到着。肌寒い海風を受けながら二見興玉神社を自由参拝し、最初の記念写真となりました。

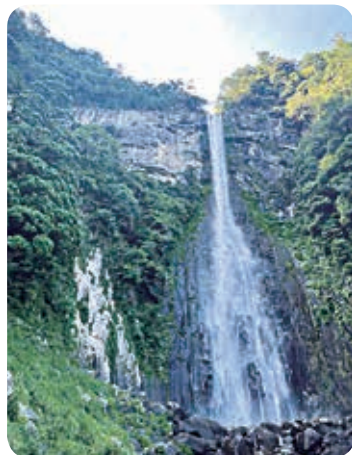
二日目は朝から雨模様で、記念写真を撮り宇治橋を渡り神楽殿に着く頃には雨脚が強くなりました。初日の鳥羽のホテルではお隣りの鳥取県神社庁の団体と一緒にになりましたが、大々神楽も一緒に奉納しました。こんな事は今まであまり無かったと思いま

す。雨の中の内宮の特別参拝も足下が悪く大変でした。十一時の出発でしたので、おはらい町通りでのショッピングは大半の方が岩戸屋で済まされたようで、いつもでしたら多くの人がおかげ横丁の方までゆっくり散策されるのですが、雨のため又あまり時間も無かったので、歩いておられる方は少なかったようです。

ショッピングを済ませると昼食場所の熊野市の鬼ヶ城センターを目指して紀勢自動車道を南下。ところが、その高速で事故が起こり、簸川支部のバスは強制的に高速から下ろされ、くねくねと曲がりくねった山の中の道进行することになり、遅い昼食となりました。こういうハプニングも楽しい思い出です。



熊野速玉大社参拝



那智の滝

そして、和歌山県新宮市の熊野神社の総本宮・熊野速玉大社に正式参拝しました。熊野速玉大社の上野宮司様の説明やお話の中で、同じ簸川支部の万九千社・立虫神社の錦田宮司の名前が出てきたのは出雲とのご縁を感じて驚きました。次に熊野那智大社の別宮である飛瀧神社の御神体として崇められている那智の滝に行きました。日本三名瀑の一つでもあり、落差百三十三メートルの壮観な滝の流れは何度見ても感動を覚えます。白浜のホテルには高速道でのハブニングのため一時間近く遅れての到着で部屋に入り、着替をしたらすぐ宴会となりました。

三日目は先ず「とれとれ市場南紀白浜」でショッピングをし、次に「紀州梅の里な

かた」でもショッピングをしました。梅の里では三十分しか時間が無く、レジに行列が出来て大変でした。昼食後、安珍・清姫伝説で有名な道成寺へ行き、楽しく説法を拝聴し帰路につきました。

今回は一班と二班含めても二十年連続参加者は一班の一名だけでしたが、十年連続、三年連続参加の表彰を受けられた方々には改めてお祝い申し上げたいと思います。個人的には三年連続は出来ても十年以上となると幾ら健康でも冠婚葬祭が重なったりすると続けられないので、十年以上の表彰の仕方について再考すべきだと思っています。又、今回初めて参加された方の中には、参宮旅行団募集のチラシを昨秋初めて見たという方もおられたので、各神社の宮司様には教化活動の一環として氏子の方々にチラシの回覧等

しっかりとやっていただきたいと思っています。

私は引率責任者を任



宴会会場

されるようになって、その都度手間暇かけて参加者の車中でのおやつと飲み物の準備バスの座席やホテルの部屋割りを考えて決めています。二泊三日の参宮旅行の中で行動を共にする同じバスに乗る人々、一畑トラベルの人達との絆や情愛が育まれていると感じています。身体の労苦を伴わない便利さとお金だけに頼る暮らしの中では深くお互いを結びつける感情は沸いてこないと思います。

参宮旅行は、おかげをいただくことだけでなく、失われつつある共同性を取戻す、人間と自然が多彩に織成す共生の風景をつくっていく大事なひと時ではないかと思っています。この参宮旅行で培ってきた人々とのつながりを今後も大切にしていこうと思っています。

何回目かの紀伊半島一周の旅でしたが、二日余り我々一班も二班も無事に走り終えられたこと、これも出雲の神々、そして伊勢の天照皇大神始め今回参拝させていただいた各神社の神々のご加護あつてのことだと思っています。ありがとうございました。

令和7年教化委員会出雲部会 伊勢神宮参拝連続参加表彰者名簿

連続参加表彰者【一班】(30名)

No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名
1	20年	須山 宏幸	簸川支部	11	3年	足立 百合子	能義支部	21	3年	和田 幹雄	飯石支部
2	10年	加藤 進	能義支部	12	3年	吉村 修		22	3年	石橋 真治	
3	10年	坂本 進	簸川支部	13	3年	板金 悟		23	3年	松田 栄次	
4	10年	加瀬部 清人	飯石支部	14	3年	小村 恒雄	簸川支部	24	3年	三原 美雪	安来支部
5	10年	錦 織満	八東支部	15	3年	安食 豊		25	3年	梶岡 東作	
6	10年	玉木 礼一		16	3年	狩野 利男		26	3年	矢田 潤一郎	
7	3年	谷口 敬子	能義支部	17	3年	狩野 正子	飯石支部	27	3年	野々内 祐子	八東支部
8	3年	山本 正一		18	3年	福岡 和幸		28	3年	永島 清孝	
9	3年	山本 益美		19	3年	福岡 裕子		29	3年	井上 美枝子	
10	3年	柴田 一枝		20	3年	田中 和子		30	3年	岸本 礼子	

簸川支部 = 6名 能義支部 = 8名 飯石支部 = 8名 八東支部 = 5名 安来支部 = 3名

連続参加表彰者【二班】(18名)

No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名
1	10年	松崎 貞男	仁多支部	7	3年	村尾 美由紀	仁多支部	13	3年	広田 朗子	仁多支部
2	10年	畑 美紗子		8	3年	北村 和子		14	3年	千原 泰治	出雲大社支部
3	10年	家熊 猛		9	3年	松崎 敏江		15	3年	明正 美喜子	
4	10年	藤原 勝盛		10	3年	柏 美江子		16	3年	田中 鈴夫	松江支部
5	10年	吉田 君代	出雲大社支部	11	3年	松岡 艶子	松江支部	17	3年	田中 裕司	
6	3年	安部 佳子	大原支部	12	3年	福岡 公子		18	3年	與倉 誠	

仁多支部 = 12名 出雲大社支部 = 2名 大原支部 = 1名 松江支部 = 3名

遷座祭・式年祭紹介

なめさじんじゃ
令和6年 10月26日 那賣佐神社(遷座祭)

出雲市東神西町 宮司 武田敦隆



竹島領土平安祈願祭

島根県神道青年協議会

副会長

秦

祥岳

令和七年二月十六日(日)、島根県神道青年協議会(会長巨勢佳史)主催により、竹島領土平安祈願祭を島根県神社庁神殿において斎行した。当日は、忌部正孝神社庁副庁長を始め、支部長、関係団体長、また神道青年全国協議会大島居良人会長、中国五県青年神職協議会など、四十余名の参列をいただいた。

竹島は、国際法上も歴史的にみても我が国固有の領土である。しかし、七十年以上にわたって韓国による不法占拠が続き、現在も領土権の既成事実化をしようとする動きを続けている。この問題は主権国家の根幹に関わる大きな問題である。そこで、竹島が帰属する島根県の青年神職として、我々は十数年前より祭祀を通じ、すみやかな領土権の確立と日韓の真の友好和平、共存共栄を真摯に祈願するべく当祈願祭を開催しており、本年も二月二十一日(土)の「竹島の日」に先立ち、竹島領土平安祈願祭を斎行する運びとなった。

また今回の祈願祭の後には、国土交通大臣政務官・高見康裕衆議院議員をお招きし、『領土問題について』と題した時局問題講

演会を開催した。未だ解決の糸口が見えない領土問題について、高見議員の見解をもとに様々なお話を伺い、現状の竹島に関わる問題意識を再確認した。後には進捗状況の質疑なども活発に行われ、参加した一人ひとりが、なぜ戦後七十年以上にもわたる韓国の不法占拠が続いているのか、なぜ竹島に領土問題が生じているのか、早期解決のために今我々に何が出来るのか、ということを考える貴重な機会となった。

今回の竹島領土平安祈願祭並びに時局問題講演会を通じ、個人の無知と無力さを感じた。ただ、このような機会を経て、学びとともに先人の想いを受け継ぎ再確認していくことで、声や想いを途絶えさせないよう伝えていくことは出来る。先ずは我々青年神職の一人ひとりが関心を持ち、風化させることなく今後も取り組み続けていく事で、その意義をしっかりと胸に抱き、真に友好的で平和的な解決に至る日まで、祈りを続けていかなければならない。

祭典奉仕者

斎主	秦	祥岳(出雲)
祭員	福谷	一眞(簸川)
祭員	錦田	寛史(簸川)
奏楽	安田	祐紀(出雲)
奏楽	三戸	太貴(飯石)
典儀	宮川	龍哉(松江)





初任神職研修

初任神職研修が前期

二月八日、九日、後期

四月十九日、二十日に

開催され十二名の参加

があった。

研修生名簿

氏名	支部
青戸 長子	松江
井上 綾	松江
鳥屋尾 絹枝	松江
神白 由里子	安来
神白 智久	安来
宮澤 雄介	大原
泉 京華	出雲大社
高橋 大河	出雲大社
渡部 光紀	出雲
壺倉 和良	大田
植田 晃次	邑智
森脇 求	那賀

謝辞

令和六年度初任神職研修修了生を代表して、一言お礼を申し上げます。

この度、私たち研修生は、二月八日、九日及び四月一九日、二十日の四日間にわたり本研修に参加致しました。

初日は辺り一面に雪景色が広がり凜とした空気に包まれ研修が始まりましたが、本日は春陽の中で修了を迎えることとなりました。

講師の先生方からは、神宮史や神社本庁史などの歴史や歩み、また神道の教学や祭祀実技など七科目をご講義、ご指導いただきました。

我々研修生は、日ごろ奉務神社において奉仕に務めています。今回の研修を通じて、神職の心構えを改めて学ぶとともに、祭祀の本義に立ち返り、基本作法を心掛けることの

重要性を再認識いたしました。

この度の研修には県内各支部から幅広い年齢層の十二名の初任神職が参加しており、同じ神職の道を歩む者同士、交流を深める貴重な機会となりました。研修後も互いに切磋琢磨し、神職としての自覚と教養を培うことで、資質を向上させ、祭祀の厳修、氏子崇敬者の教化に努めてまいります。

最後になりますが、熱心にご指導をいただきました講師の先生方、研修を運営いただいた島根県神社庁の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、お礼の言葉といたします。

令和七年四月二十日

修了生代表 渡部 光紀

令和七年 神職養成階位検定講習会開催要項

【主 催】 島根県神社庁

【開講階位・期間】

権正階(乙) 八月七日(木)

権正階(甲) 八月二十二日(金) 八月十九日(火)

直 階(甲) 八月七日(木) 九月三日(水)

直 階(乙) 八月二十二日(金) 八月十九日(火)

直 階(甲) 八月七日(木) 八月十九日(火)

直 階(乙) 八月二十二日(金) 九月三日(水)

直 階(甲) 八月七日(木) 八月十九日(火)

直 階(乙) 八月二十二日(金) 九月三日(水)

【開催場所】 『島根県神社庁』

島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【出願条件】

権正階：直階を有し年齢満十八歳以上の者

直 階：高等学校以上の学校卒業者又はこれに準ずる学力を有する者で、主

催者において適当と認めた者

※権正階・直階共に最低三〇分程度の正座

ができる者

※分割受講について

当庁では権正階・直階共に甲・乙課程を

分割受講することが可能です。但し、全

課程(甲・乙)を権正階は三年、直階は

二年以内に受講出来る者に限ります。

【募集人数】

権正階二十名・直階二十名

※受講希望者が定員を超えた場合、入所選

考を行いますので予めご了承下さい。

※分割受講中の者及び県内在住者(または県

内奉職予定者)を優先的に選考いたします。

【受講料】

権正階(甲・乙課程) 各 八〇、〇〇〇円

直 階(甲・乙課程) 各 七五、〇〇〇円

※全課程受講した場合

権正階 一六〇、〇〇〇円

直 階 一五〇、〇〇〇円

※県内の受講生については、甲・乙各

一〇、〇〇〇円の助成をする。

※その他、社頭学習費含む。

※諸事情により、本年は合宿は行いません。

【出願手続】

1. 提出書類

① 受講申請書

※必ず顔写真貼付、推薦欄には奉職予定神

社宮司の推薦を記載して下さい。

② 履歴書(市販履歴書可)

③ 書籍申込書

④ 受講資格証明書書類

・権正階：直階階位登写し

・直 階：高等学校以上の最終学歴卒業証

明書写し(又は卒業証書写し)

⑤ 返信用封筒

※角形3号封筒(B5版)に自分の住所・氏名

を表記し、二五〇円切手を貼付して下さい。

⑥ 推薦書(当該都道府県神社庁長及び支部

長用)

※支部長が『推薦の事由』に記載した上で

署名、押印願います。

2. 申込期限

六月十八日までに支部経由(他県は神社

庁経由)にて島根県神社庁必着。

※期限を過ぎた申し込みは、受講許可通知

の発送期日等に影響し、全ての受講生に

迷惑が及びますので締切厳守願います。

【宿 泊】

神社庁には宿泊施設が無いため通講制で

の講習となりますので、各自手配願います。

※ご希望の方には出雲市内のホテルを紹介

致しますので、早めに神社庁までご連絡

ください。

【その他】

・申込書類は、不備があれば再提出を求め

る場合があります。

・長期講習につき、体力に自信の無い方は

その点充分にご検討の上でお申し込み下

さい。

※分割受講に関する事、願書請求、その他

不明な点がございましたら島根県神社庁

までお問い合わせ下さい。

島根県神社庁

tel 〇八五三ー五三ー二一四九
fax 〇八五三ー五三ー二五八二

神職任免

(令和7年1月1日～令和7年5月1日)

[illegible]

神職階位昇級

淨階 三月一日附発令
熊野大社 宮司
熊野 高裕（八束）

神職身分昇級

一級
熊野大社
三月一日附発令
宮司
熊野 高裕（八束）

二級上

原鹿神社 宮司 金築 孚（簸川）
八幡宮 宮司 福場 義和（益田）

二級

來次神社 宮司 松岡日出夫（大原）
柿本神社 宮司 中島 匡博（益田）

新任神職紹介



松尾和史

〔生年月日〕平成十五年四月二十七日

〔住所〕 出雲市多伎町小田

〔奉職神社〕 小田神社 祢宜

七年二月一日

が苦手ですが、克服できるように頑

張ります。ご指導よろしく願います。

功績表彰

令和七年二月三日

第三条二号

加茂神社 宮司
内田 貞文(大原)
忌部神社 宮司
和田 統彦(松江)
大山代神社 宮司
稲原 秀文(松江)
八幡宮 総代長
西谷 仁秀(江津)

第三条三号

八幡宮 総代長
西谷 仁秀（江津）

庁務日誌

(令和7年1月～3月)

1月6日 御用始祭
1月23日 正・副庁長会
役員会
総代会出雲部会評議員会
教化委員会出雲部会役員会
宮司辞令交付式
新年互礼会 於 武志山荘
新年祭
1月24日 講師会議
1月25日 支部祭式助教研修会
2月5日 教化委員会出雲部会支部責任者引率責任者合同打ち合わせ会
2月8～9日 初任神職研修(前期)12名参加
2月16日 竹島領土平安祈願祭並時局講演会 於 神社庁(忌部副庁長参列)
2月16～17日 神宮五大祭祈年祭奉仕 於 伊勢神宮(天満宮祢宜池田朋史)
2月17日 出雲大社祈穀祭 於 出雲大社(角河庁長参列)
2月25～26日 中国地区神社庁連絡会議 於 ホテルニューオータニ鳥取(角河庁長、忌部・篠田副庁長、金築参事出席)
2月26～27日 第二期・第三期合同過疎対策研究会 於 本庁(邑智支部長三浦正典宮司、懸神社宮司竹下正宏、和田主事出席)
2月27日 過疎対策教化研修会 於 本庁(邑智支部長三浦正典宮司、懸神社宮司竹下正宏出席)
祈年祭併神宮大麻曆頒布終了奉告祭 斎主 島前支部長 松浦道仁宮司
支部長会
3月4日 神宮大宮司招宴 於 神宮会館(角河庁長、中田大田支部長、和田主事出席)
3月5日 神宮大麻曆頒布終了祭 於 内宮神楽殿(角河庁長、中田大田支部長、和田主事参列)
神宮大麻曆頒布春季推進会議 於 神宮会館(角河庁長、中田大田支部長、和田主事出席)

3月5～6日 第七回神宮大麻都市頒布向上研修会 於 神宮(中田大田支部長出席)
3月10日 第一回役員選考委員会
3月13日 神社庁長懇話会 於 明治記念館(角河庁長出席)
3月14日 全国神社庁長招宴 於 明治記念館(角河庁長出席)
神社庁長会 於 本庁(角河庁長、金築参事出席)
皇室普及委員会 於 本庁(角河庁長、金築参事出席)
教化委員会出雲部会新支部長会
3月17日 大社國學館卒業奉告祭並卒業証書授与式 於 大社國學館(角河庁長参列)
身分証書伝達式
3月26日 臨時協議員会
3月27日 総代会出雲部会総会並国民精神昂揚研修会 於 ビッグハート出雲(角河庁長、忌部副庁長出席)
3月31日 米原尊仁宮司神職身分浄階特級昇級祝賀会 於 ホテルセントパレス倉吉(忌部副庁長出席)

神職帰幽

出雲市平田町	宇美神社	宮司	河瀬直明
雲南市木次町	來次神社	名譽宮司 松岡美昭	令和七年一月二十九日 享年七十七
松江市大庭町	神魂神社	権祢宜 秋上敏子	令和七年二月十一日 享年九十六
雲南市大東町	山地神社	宮司 石原朝登	令和七年二月十五日 享年八十五
安来市広瀬町	金屋子神社	名譽宮司 安部正哉	令和七年三月一日 享年九十三
			令和七年三月三十一日 享年一〇二

謹んで哀悼の意を表します。
島根県神社庁長 忌部正孝

开社☆ガール通信

奥出雲町・安来のたたらを巡る

今回の神社巡りは、「たたら」をテーマに仁多郡奥出雲町と安来市広瀬町を巡りました。

まずは、奥出雲町にある『奥出雲たたらと刀剣館(仁多郡奥出雲町横田1380-1)』で集合。ここではスタッフの佐伯さんに館内を詳しく案内していただきました。たたら最盛期には日本全国の鉄の8割をこの出雲で生産していたこと、それは広大な山林と豊富な水があつてできることなど教えていただき、改めて自分たちのいる地域の豊かさに気づかされる思いでした。たたら操業をする為の炉の解説パネルを見て、どうやってここまでの地下



奥出雲たたらと刀剣館

構造を考え出したのか、想像もつきません。鍛冶職人さんたちの技術は凄い！
一通り玉



奥出雲たたらと刀剣館

鋼の作り方の展示を見学した後は、金屋子信仰についての展示を見せていただき、たたらで山を切り崩した後にその地形を利用して棚田が作られたお話をうかがいました。最近よく耳にするSDGs(エスディーズ・持続可能な未来を築くための世界共通目標)に奥出雲町は昔から取り組んでいたのですね。

安来市へ向かう途中、大けらの塊が置いてある場所に立ち寄りました。ここは『JAしまね雲南地区本部(雲南市木次町里方1088-6)』の駐車場の一角です。「けら」というのは、たたら製鉄で炉の底にできる鉄の塊のこと。この大けらは昭和63年に「上分・原たたら跡」から出土した物で、所々、表面がガラス状になった部分がありました。重量はなんと約600kgもあるのだとか！

いよいよ最終目的地の『金屋子神社(安来市広瀬町西比田307-1)』へ。御祭神は金山彦命(カナヤマヒコノミコト)、金山媛命(カナヤマヒメノミコト)。全国に1200社ある「金屋子神社」の総本宮であり、製鉄の神様・金屋子神が降り立ったとの伝承が残されています。

この日はちょうど翌日のお祭りの準備中でした。お忙しい中、宮さんがにこやかに対応してくださり恐縮しきり。参道にはけらの塊や桂の木(金屋子神は比田の桂の木で休憩されていたという伝承があります。)山から流れ出す清水に、清々しい気持ちになります。あいにくの天候で奥宮へは行けませんでした。次回参拝した際は奥宮へも足を延ばして行きたいです。

奥出雲

町・雲南市・安来市と巡り、たたら製鉄の奥深さに触れた一日でした。



金屋子神社

支部だより

簸川支部

御井神社 宮司 稲田 真二

心を一つにして斎行する假殿遷座祭

令和七年三月九日夕刻。氏神様は無事に御假殿にお遷りになりました。夕日が明るく殿内を照らし輝いています。まるで氏神様とこの祭典に奉仕した神職・遷宮委員さんや氏子の皆様の気持ちが一つになった表れに思えました。

御井神社は、ご祭神が木俣神また御井神であり、近くには母神八上比売の社や産湯に使われた三つの井戸があります。古事記や風土記にも記載がある千数百年以上の由緒ある神社です。氏子数は百戸あまりです。今回は平成七年から三十年ぶりに行われる式年遷宮となります。

総代会で遷宮の実施について話し合わせ、各自治会より遷宮委員が選出されました。委員会が立ち上がると、幾度も話し合いがもたれました。遷宮で行う工事の規模が決まり、見積もりを立て、必要な予算額が明らかになりました。それに対して、資金計画がかなり困難であることもわかりました。氏子さんの負担を減らすためには、いかに外部から御奉賛い

ただくにかかっています。そこで、遷宮委員さん方は氏子外の直江地区を一軒ずつ歩いて寄付のお願いをしたり、地区内の企業や地区外の知り合いまで広げて奉賛金をお願いしたりされました。

遷宮委員さんは、それぞれの自治会で活躍されている方々なので、ご自分の勤務先でも働き盛りの方々です。資金集めは仕事の休みや合間を使わねば出来ませんでした。委員さん方の頑張りが無ければ当社の遷宮の斎行は不可能です。御井神社にはホームページがありますが、こちらから地区外の方からのご寄付をいただくこともありました。

まだ假殿遷座祭が終わったただけで、秋の本殿遷座祭まで八月あります。氏子さんの熱意に背中を押されながらではあります。すが、宮司としてこの三十年に一度の大事業をやり遂げたいと誓いました。



本殿から御假殿への行列

編集後記

この度の県神社庁役員の改選において、退任されました角河庁長を始め理事、支部長の皆様、大変お疲れ様でした。絶えず温かいご指導を賜りましたこと感謝申し上げますとともに、これからも私達神職を見守っていただきたいと願っています。

さて、県内各社それぞれに祈年祭を了えた今、農村では田植えの真最中です。五月の風が田んぼの水面を渡り、早苗を揺らしています。美しい日本の原風景です。しかしながら、近年の異常気象の中で、苗の生育不順や水不足等、農家の皆さんの気がかりなことは尽きないようです。

天候ばかりではありません。内外とも多事多難の世の中、政局も安定せず、諸外国の政情不安や先の見通せない混乱した経済状況が続いています。

こうした中、私達神職は忌部新庁長の元、神明奉仕に励み、氏子の方々と共に鎮守の杜を守りつつ、豊かな実りの秋を迎えられるよう心を込めて祈っていきましよう。(陶)

島根県神社庁報(第三六五号)

発行日 令和七年五月三十日

発行者 島根県神社庁

編集 広報委員会

委員長 陶山 浩正

副委員長 鳥屋尾 浩

委員	鳥居 正嗣
委員	江角 恵
委員	石崎 彰矩